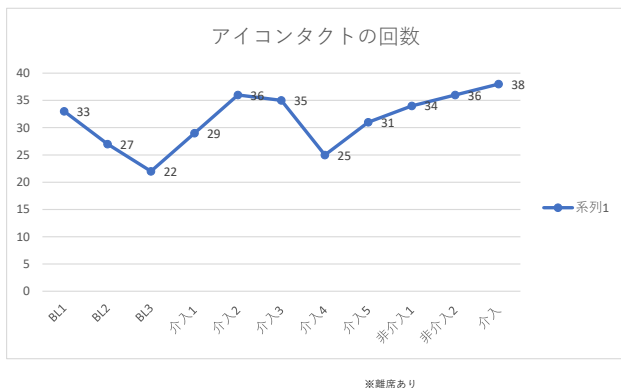


<b>対象児</b> : K君 5歳7ヶ月 (年中)				
<b>ABA開始時期</b> : 2017年4月～ / DQ65 (2017/4) → DQ87 (2018/4)				
<b>観察する行動(定義)</b> : 10分間テーマについて3人(K君、母親、セラピスト)で会話している時の目合わせの回数				
<b>課題を導入した経緯</b> : ・2017年の間に情報交換型会話、過去の経験話す、適切な質問を返す、相づちをうつ、人の話を聞いて質問に答えるなどの課題をそれぞれこなしてきたので2018年5月からこれらを含んだ会話を継続することを目標とした ・始めは2人でその日の幼稚園の出来事や食べたもの、お出かけした経験を話したり、次のお休みの日の予定を話し合うのを5分続けた(K君の興味のある話ネタで展開する) ・タイマーで時間のリクエストをすることもあり(数字好き)、興味のある内容なら10分前後の会話の持続は苦ではなかった ・3人で同じように会話を継続することができてきた(2人の会話に入る、知らない話には質問することも教えた) ・ただ、興味のない話だと姿勢が崩れたり、目の前に気になるものがあると触ったり視線がそれることが出てきた ・医者診察中やSTの個別指導の際に壁のカレンダーを見たり、卓上カレンダーを触って会話が途切れると母親からの聞き取りを受ける(2018/9頃) ⇒ <b>カレンダーが目前にあっても触らず見ないで、テーマにそってお話しできるように目標を立てて10分間に目合わせの回数をグラフにしようと思ったのがきっかけである</b>				
<b>測定方法</b> : ・テーブルを囲んで三角形に座り、K君が母親とセラピストにそれぞれ目を合わせた時から離れるまでのアイコンタクトの合計回数を計測する。 ・時間は10分間(タイマーを使用) ・目があって離れるまで2秒以上を1回とカウントする(3秒、5秒→1回/1秒→カウントなし) ・K君からみて右側の壁(母親の後ろの視界に入る位置)にカレンダーをはる/テーブルの上には卓上カレンダーを置く ・お話しする時のお約束を確認してから始める(※1) ・テーマはセラピストが決めたり、K君に選ばせたり、母親と相談して決めて行う(紙に書いておく※1) ・母親を見たときとセラピストを見たときのアイコンタクトの回数をリアルタイムで記録する(※2) ・目があった時は「見て話してるね」などの直接的な言葉は言わず、ニコリするのとK君の話に対してオーバーリアクションを強化とする ・体や手がフラフラしたり、視線がカレンダーにいきがちの場合にプロンプトとしてお約束を言って気づかせる				
<b>介入方法</b> : ・調子のいい前半に行く/セラピー時間にもカレンダーを設置する(10/3～)休憩時間は見ていいとする ・数が書いてあるトークン表を選ばせる/目を見た数のシールを貼るよとモチベーションを高める(※3) ・始める前に「お話しする時のお約束は？」と紙に書かれたものを読ませて確認→見なくても言うようにしていく ・プロンプトはフルPから弱めていく 1)音声プロンプト「手はおひざ」「話すときは？」など 2)お約束の紙をチラ見させたり、「お約束は？」と言って気づかせる 3)「ん?」「あれ?」と言うだけで気づかせる ・記録した回数を一緒に数えることでワクワクさせる/シールを与える				
<b>観察期間</b> : 2018年9月～2018年11月(3ヶ月間)				
<b>結果</b> :				
	テーマ	合計	離席	備考
	BL1 (9/5) 運動会	33		カレンダーなし/お約束なし
	BL2 (9/12) 秋にしたいこと	27		カレンダーあり/お約束なし
	BL3 (9/19) 運動会で頑張ったこと	22		カレンダーあり/お約束なし
	介入1(9/26) お休みの日に出かけたこと	29		
	介入2(10/3) いもほり	36		常にカレンダーを設置する
	介入3(10/10) 好きな食べ物	35		きりたんぼの話題を振りきりたんぼ祭りに行ったことを話せる
	介入4(10/17) こわい(いやな)ところ	25		病院に行ったことを話してもらいたかったがうまく引き出せなかった
	介入5(10/24) エレベーター	31		母親とテーマの相談をしてたら会話に入ってきて自分からテーマをリクエストする 母親から少し注意されて都合が悪くなるとカレンダーを触り始める様子もあり
	非介入1(11/7) 何して遊ぶ?(次回ピアトレ)	34	有り	お約束なし/ノープロンプトで試すが離席、カレンダーを見る→4回/ハイテンション
	非介入2(11/28) たのしかったこと(ピアトレ)	36		お約束なし/ノープロンプトで離席、カレンダー見る→なし/積極的に話す
	介入(1/9) お正月楽しかったこと	38		お約束あり/プロンプトあり



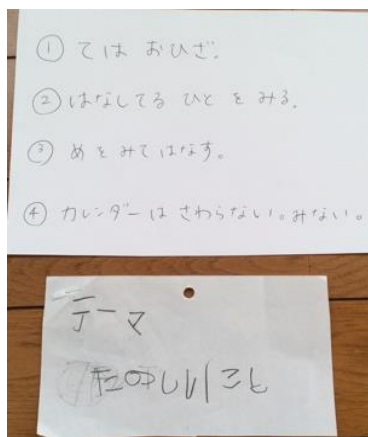


同じ年の娘と父母の3人で「お正月」をテーマに会話をしたところ10分間に56回のアイコンタクトがあった！

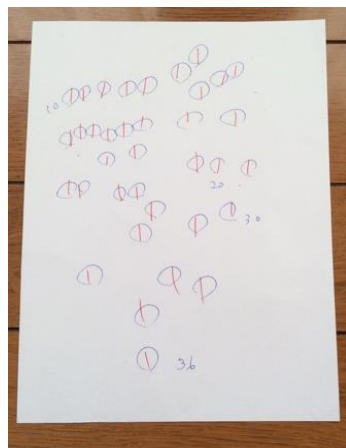
父母をキョロキョロして見る。後半膝掛けをいじる。

K君：3.8回/分  
娘：5.6回/分

※1



※2



※3



**考察：**

- ・BL1のカレンダーがない状態での会話のアイコンタクトが33回で、そこからカレンダー有りでも38回に伸ばせたことは介入の有効性を示唆する
- ・BL2、3から分かるように事前にお約束がないと視線がずれやすく、カレンダーを触ることも目立っていたが、毎回お約束を確認すれば意識できることが分かった。会話やそれ以外の場面でも事前にお約束を確認する方法が有効かもしれない。
- ・テーマによって積極的に話している時間のパラツキも見られ、回数が低いときは姿勢が崩れやすくなりプロンプトの数も多かった
- ・こちららも盛り上げて会話をしているので、多少大人のリードによって回数の変動にも影響していたかもしれない⇒介入4
- ・グラフに関して、これだけだとプロンプトの回数やカレンダーを見た回数、どのタイミングでプロンプトを減らしていったかが不明確なので、プロンプトの回数等もカウントすべきだった。
- ・非介入1の時に事前の確認とプロンプト無しで会話をしたところ、アイコンタクトの回数は多かったものの、ピアトレで遊べるという興奮もありびよんびよんしたりカレンダーをみる行動も見られた
- ⇒同年代の子と会話をしている嬉しさに飛び跳ねることはあるので自然の姿であると考えてもいいかもしれない
- ・K君の会話中のアイコンタクトは長めで見つめてくることが多かったのに対して、娘との会話はキョロキョロしながら2人に向かって話していたので、回数に違いが出たのかもしれない⇒2秒以上を1回とカウントする基準をどう評価するか/見直すべきか検討が必要
- ・K君は声かけされながらも一生懸命に話す姿勢ときちんと相手の話を聞こうとする姿勢は評価できる⇒回数より内容を重視すべきである(お正月のテーマで自分からお話ししたり、セラビストの話聞いて適切な質問ができるなど)
- ・同年代のいとこと遊びや会話のレベルも上がってきているという事なので、今後もピアトレを通して子供同士の関わりを伸ばしていきたい
- ・更にと人と話す時のマナー(声のボリューム、距離感、関係ない話をしない)の練習も継続していく